

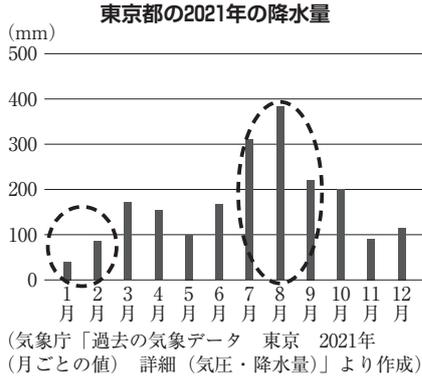
第2講

資料の文章化

基本事項

統計資料から読み取った結果を文章にまとめる際には、主観や思い込みによるのではなく、客観的な事実に基づいて文章にすることが重要である。そのためには、グラフに示されているデータに即して論述するのがよい。基本的にはデータ同士を比較してまとめることが多いが、グラフの種類によって読み取ることができている内容には違いがある。それぞれのグラフにあったまとめ方を意識することも重要である。

① 資料のデータを大きく二つに分ける

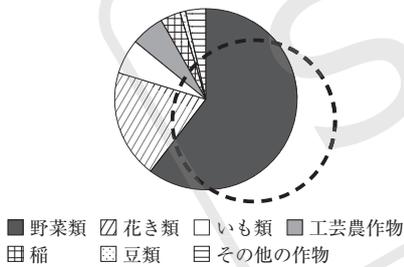


データ同士を比較するためには、比較するための「軸」を見つける必要がある。グラフの種類によって細かい比較の仕方は異なるが、基本的に、示されているデータを大まかに二つ、あるいは三つ程度に分けることで、簡単に比較ができるようになる。例えば、上のグラフは、二〇二一年の東京の降水量を月ごとにまとめたものである。降水量の多い月・少ない月に二分して比較すると、降水量の多い月は八月をはじめとして夏に、降水量の少ない月は一月をはじめとして冬にまとまっていることがわかる。

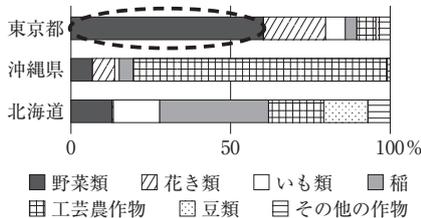
② グラフのもつ特徴に合わせた文章をつくる

棒グラフ：棒の高低でデータの比較をしているため、対比・比較の表現でまとめる。**表現の型**「一方」に対して「例」冬に対して、夏の方が雨が多く降った。」

東京都の作物作付面積の割合



東京・沖縄・北海道の作物作付面積の比較

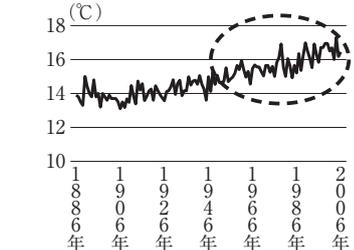


(農林水産省「2000年世界農林業センサス 第1巻 都道府県別統計書 農業編」より作成)

※以上の表現の型は不変のものではなく、文章に即して適宜調整する。

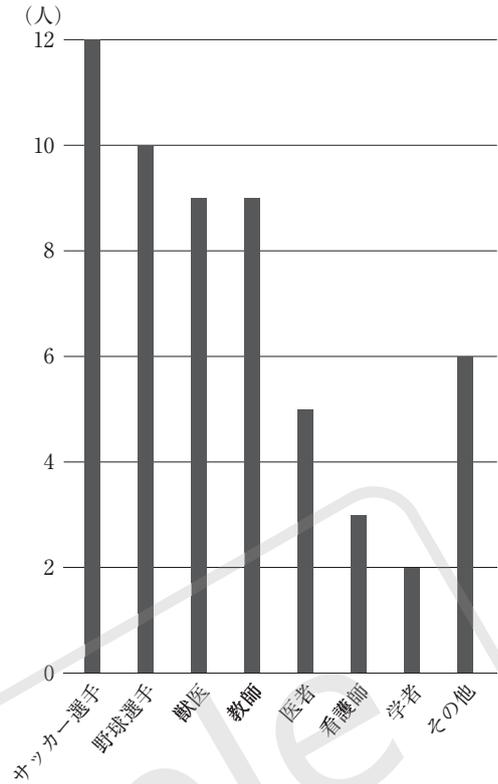
折れ線グラフ：数量の変化を時間に沿って示しているため、時系列の表現でまとめる。**表現の型**「～(まで)は～(だ)が、～以降(は)～」例「東京の年平均気温は一九六六年以降、常に十四度以上である。」
円グラフ：円に占める角度によって、順位や序列を大まかに示しているため、順位や序列を示す表現でまとめる。**表現の型**「○○は～(だ)が、□□は～」例「東京都の作付面積は野菜類が最も多いが、稲や豆類は少ない。」
帯グラフ：同じ長さの帯を並べ、それぞれの構成比を比較する。棒グラフと円グラフの特徴を兼ね備える。**表現の型**「～と比較して」～に対して「例」東京都は沖縄県・北海道と比較して、野菜類の作付面積の割合が大きい。」

東京の年平均気温の推移



1 次の資料は、ある小学校の六年生に将来の夢についてのアンケートをとった結果を棒グラフにまとめたものである。この資料について、後の文の空欄に入る言葉を書き入れよ。

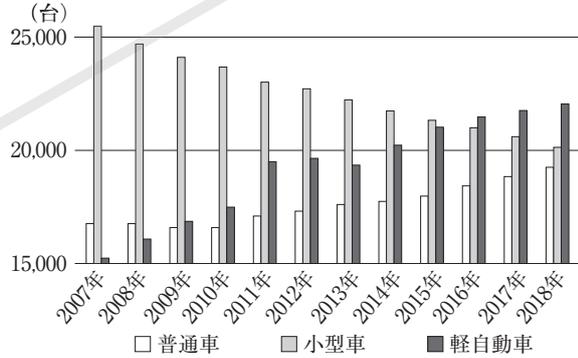
将来の夢に関するアンケート結果



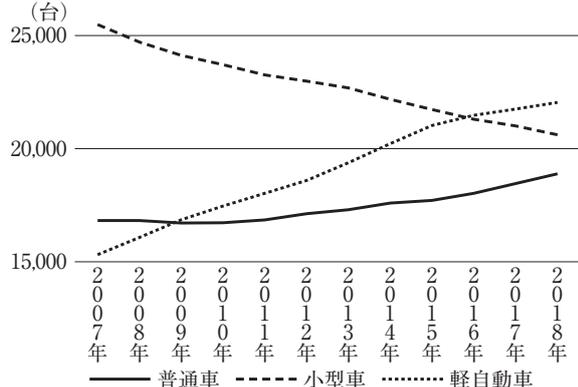
- (1) サッカー選手と看護師を比べると、サッカー選手と答えた生徒の方が「 」。
- (2) 「 」と答えた生徒と「 」と答えた生徒は、同じ数である。
- (3) 野球選手と答えた生徒は、「 」と答えた生徒の二倍の人数である。
- (4) 職業を、スポーツ選手、医療・獣医療関係、教育・研究関係と三つに分けるとすると、最も人気があるのは「①」であり、「②」より次に多いのが「②」。次に「③」、「④」となる。

2 次のグラフは同じ資料を棒グラフと折れ線グラフとで別々に表したものである。この資料について指定の語と表現の型とを用いながら、簡潔にまとめよ。

(1) 車種別保有台数の推移 (棒グラフ)



(2) 車種別保有台数の推移 (折れ線グラフ)



(1)・(2)…国土交通省「数字で見る自動車2021」より作成

(1) 棒グラフ 【表現の型…】に対して

指定語 「二〇〇七年」「二〇一八年」「最も少ない」

(2) 折れ線グラフ 【表現の型…】(まで)は…(だ)が、…以降(は)【

指定語 「二〇一六年」「最も多い」

